

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

月に2回先生による往診があり、医療面の連携が取れている。周辺環境が良く、田畑に囲まれ一年を通して四季を感じることが出来る。木造でアットホームな雰囲気であり、スタッフが笑顔で対応する様努めている。

基本情報リンク先

【評価機関概要(評価機関記入)】

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して10年目を迎える事業所は、松山市郊外の農家と新興住宅が混在する地域に立地し、近くに法人が経営する介護老人保健施設がある。運営推進会議には町内会役員や民生委員が熱心に参加しており、防災対策や避難訓練についての協議を重ね、火災時に町内会に依頼したい事柄を具体的に決めたり、大災害時一時避難所として法人施設を活用するための覚書を交わしたい等の要望が出されている。管理者は利用者が自己決定できるよう支援したいと考えており、話しをよく聴くこと、利用者の残存能力を大切に介護を行うことを大切にしている。食事風景も和やかで、職員が目目の不自由な方へ細やかな配慮をしている様子が伺えた。転倒の危険性が高い利用者に4点柵を使用していることについて、市担当者から指摘を受けたことを契機に、職員間や運営推進会議で話し合い、拘束をしない介護に取り組んでいる。話し合いを基調に、よりよいケアの実践に取り組んでいる事業所である。

1

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームひめ椿

(ユニット名) もみじ

記入者(管理者)

氏 名 松田 岳人

評価完了日 平成 28年 1月 30日

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 事業所独自で、地域との交流を目標とした理念を作成し事務所に掲示することで全職員が共有し、実践に繋がる様努めている。 (外部評価) 事業所では、開設当初に職員で話し合って決めた理念を大切に継承している。管理者は家庭的雰囲気を大切にし、利用者が自己決定しながら残っている能力を発揮して笑顔で暮らしてもらいたいと考えている。職員は理念をスタッフルームに掲示して共有し、ケアに行き詰った時は理念に立ち返り見直している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域主催の夏祭り、秋祭り、避難訓練等の行事に参加させて頂いており運営推進会議へも地域の方に参加して頂き、交流を図っている。 (外部評価) 町内会に加入しており、地域で行われる行事に積極的に参加している。地区の公園で行われる夏祭りに出店参加したり、秋のバザーにも参加して花や野菜を購入して楽しんでいる。利用者は公園で知人と出会って話したり、地区の人に声をかけてもらい、喜ばれている。来年度は園児や学生との交流の機会を検討中である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 行事・運営推進会議にて日常の様子をお伝えし、認知症への理解・支援の方法を知って頂ける様努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 地域の方から地域の行事の情報などを伺ったり、事業 所の取り組み、入居者の方の様子を報告し、意見を伺 いユニット会にて全職員に伝えて、サービスの向上に 活かせる様努めている。	
			(外部評価) 運営推進会議は、利用者と家族、町内会役員、民生委 員、地域包括支援センター職員の参加を得て2か月に 1回開催している。会議では、利用者状況や活動報告 を行うほか、当面の課題について協議している。今年 度は避難訓練について、町内会との役割分担や協力事 項について具体的な話し合いを持つことができた。ま た、身体拘束についての意見交換も行われた。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議へ出席して頂き、サービスの取り組み内 容を報告したり、分からない事があれば連絡し教えて 頂く等協力関係を築けるよう取り組んでいる。	
			(外部評価) 運営推進会議に市職員が参加して、事業所の状況を理 解してもらっており、介護保険制度について情報を得 るなど、相談できる関係を築いている。地域密着型事 業所連絡協議会に市職員が参加して助言を得る機会が あり、連携を深めている。また、生活福祉課とも連携 して利用者の支援にあたっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 勉強会で理解を深め、実践に努めているが、玄関の施 錠については来客に気付かない事、安全面・防犯面も 考慮し施錠を行っている。身体拘束ゼロを目指し、取 組んでいる。	
			(外部評価) 4点柵の使用について改めて学習し、身体拘束しない ケアについて職員全員が共通に理解することができ た。転倒骨折の危険を避けるための方法について、家 族と話し合い承諾を得ながら対応している。また、福 祉機器の導入についても検討中である。	事業所では拘束をしないで、工夫してケアを行ってき た経緯があり評価できるが、言葉の拘束についての認 識は共有されていない状況がある。改めて、何気なく つかっている言葉や言い方が、利用者の行動を抑制す ることがあり、それも拘束になることを学ぶ機会を持 ち、職員に周知されることを期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会で理解を深め、虐待が見過ごさる事がない様職員同士で注意しあい防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 勉強会で学んではいるが、実際に話し合いは設けてられておらず、今後必要に応じて対応していきたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所時・退所時、またその他必要な時に利用者様、ご家族の思いを伺いながら説明を行い、不安が軽減し理解・納得して頂ける様努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者様の希望や思いは日々の会話でお聞きし、ご家族の方の希望・ご意見は面会時に伺いユニット会にて話し合い、ケアの向上に努めている。 (外部評価) 運営推進会議に家族代表が参加して意見を述べてもらっている。家族面会時は日勤者が声をかけ、状況の報告を行なうと共に意向や要望を聞き取るように努めている。また、毎月発行する「ひめ椿だより」に担当職員が手書きの言葉を添えて送り、家族との信頼関係を構築するよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ユニット会や日々の業務にて業務の改善案等を随時聞ける様、声掛け行い、施設長や事務長に要望を上げている。 (外部評価) 毎月行われるユニット会のほか、適宜ミニユニット会を持って意見交換を行っている。職員は意見を言いやすい環境であると感じており、介護計画にも反映させている。また、年2回実施する人事考課では個別に面談し、話し合う機会を持っている。人材育成のための研修については毎月法人内で行う勉強会のほか、法人の指示で外部研修を受けることもできる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 年2回の考査や、日々の勤務状況をチェックし主任会や、考査会などにて意見を施設長・事務長に上げている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 月1回の勉強会や、外部研修に参加して頂ける様に努めてはいるが、人員の関係等にて中々勤務での参加の都合がつけられず、課題の一つになっている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 石井・久谷地区の事業所連絡会にて、職員同士の交流を図り新たな気づきを得てサービスの質向上に活かしている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) ご本人に関する情報を把握し、入所前の面談時より本人の思い・不安・要望を伺い、少しでも安心して暮らして頂ける様関係作りに努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 自分をご家族の立場に置き換えながらご家族の困っている事・要望などをその都度伺い、関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご本人・ご家族が一番必要としている事は何かを考えながらご意見を伺い、他のサービス利用も検討し対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者様から教えて頂くことも多く、人生の先輩として敬う気持ちを常に持ち、より良い家族の様な関係作りに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 毎月ひめ椿便りにて行事報告を行い、面会時には日常の利用者様の様子を報告し、短時間でもご家族だけで過ごして頂ける様努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの人や場所との関係が途切れない様、面会して頂いたり、希望により電話を掛けるなどの支援に努めているが、全ての馴染みの人・場所の把握は出来ていない現状がある。	
			(外部評価) 入居時に家族から生活歴を聞き取り、馴染みの人や場所についての情報を得たり、関係機関から情報を収集して把握している。県外に住む家族が帰省する際に行きつけの美容室に行ったり、家族が付き添って外出に出かけることもある。事業所では新しい馴染みの場所や人をつくるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに関わり合える様席順を決めたり、職員が間に入る等対応している	(自己評価) 日頃より利用者様同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに関わり合える様席順を決めたり、職員が間に入る等対応している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 関連施設に転所された方については行事等でお会いした際にお話をしている。退所された方の相談や支援については、ご家族から相談があれば対応に努めているが、現状中々難しく、相談も過去・現在とない状況である。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日頃の様子や会話からご本人の希望や思いを把握し、ユニット会等にて職員間で情報交換を行いながら少しでも本人の意向に沿える様努めている。尚、直接希望を伺えない方はご家族と相談しながら本人本位で検討している。	
			(外部評価) 職員は日常生活の中で利用者の話をしっかり聴くよう努めている。会話の中から新しい情報があれば記録してユニット会等で共有している。気持ちを表現することが困難な利用者に対しては表情から推察したり、家族や入居前に利用していたサービス担当者から聞く等して、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご本人・ご家族からお話を聞かせて頂き生活歴・サービス利用経過の把握に努めている。又、フェースシートの確認・活用も行い、少しでも多くご本人を知る事が出来る様努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 様子観察を行い、利用者様の一日の様子を観察し職員間でも申し送って一人ひとりの現状把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 月に1回ユニット会にて話し合いの場を設け、ご家族からもご意見を伺いながらご本人の現状に即した介護計画書作成に努めている。 (外部評価) 初回介護計画は介護計画担当者が立案し、ユニット会でカンファレンスを開いて介護計画に反映させている。状態の変化がある時はその都度、ない場合は6か月に1回サービス担当者会議を開催し、話し合っ介護計画の見直しをしている。介護計画を日々意識しながらケアを行い、実施状況を介護記録に記載してモニタリングに反映させている。家族面会時に介護計画の説明をして、了承を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 1日毎に利用者様の様子・言われた言葉などを細かく記録する様に努め、職員間でも情報を共有しながらケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) ご家族等と相談しながら、状況に応じて柔軟なサービスが出来るように努めてはいるがすべてのニーズには対応出来ておらず、もっと柔軟な対応ができる様、取り組んでいきたいと思う。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 消防訓練などの際に消防署に来て頂いたり、行事にてボランティアの方に来て頂く等し、利用者様が安全で楽しく生活出来る様、支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) ご本人・ご家族の希望を第一に希望する病院・医師を 主治医とし、納得のいく医療が受けられるよう支援し ている。 (外部評価) 利用者や家族が希望するかかりつけ医を受診するこ とができるが、月2回訪問診療を受けることができるた め、協力医をかかりつけ医とする利用者が多い。法人 の介護老人保健施設に所属する看護師が24時間連絡 体制をとっており、緊急時医療連携を取ることができ る。また、歯科や皮膚科医師の訪問診療を利用するこ ともできる。総合病院外来は家族が付き添って受診 し、文書で情報を伝え共有するように工夫している。 認知症等で受診する際には、的確な状態を説明する必 要があるため、管理者が同行する場合もあり臨機応変 に適切な受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) ホームに看護師が不在の為、利用者様一人ひとりの日 常の状態を知ってもらうのは難しい面もあるが、特変 が見られた場合には直ぐに看護師に報告し、適切な処 置が受けられる様支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 事前の関係作りは行えていないが、入院された際に は、サマリーを提出しご家族・病院関係者と情報交換 を行いながら安心して治療し、早期に退院できるよう 努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入所時や重度化していく段階毎でグループホームとし てできる事を説明していきながらご本人・ご家族の意 向を伺う様努めている。 (外部評価) 医療連携体制に係る指針を作成し、利用者や家族の要 望にそって適切な医療が受けられるよう支援してい る。重度化した場合は、その都度家族の意向を確認 し、協力医と相談しながら医療体制が整っている法 人事業所に転入所することが多い。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 勉強会にて学び、実際に急変があった際にはユニット会にてその時の流れや改善点を話し合い、適切な対応が出来る様努めている。又、マニュアルも作成している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 運営推進会議にて話し合い、協力をお願いを行ったり避難訓練を年2回実施し、適切な避難誘導が出来る様努めている。 (外部評価) 年2回日中及び夜間想定での避難訓練を実施、内1回は消防署立ち会いのもと行っている。地区防災訓練に参加し、運営推進会議で災害時協力体制について具体的な協議を重ねてきている。大災害時は法人介護老人保健施設を一時避難所と取り決めており、備蓄品の準備をしている。次年度は町内会と合同で避難訓練を行う計画である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者様一人ひとりを尊重しその方に合った声掛けや対応を行い、プライバシーや誇りを損ねない様注意し対応を行っている。 (外部評価) 職員は利用者を人生の先輩として敬い、家族のような関係づくりに努めている。丁寧な声かけを行い、親しみを持って会話ができるよう信頼関係を築きたいと考えている。一人で入浴したいという利用者は頻回に声かけを行って見守っている。また、排泄介助を行う際はトイレに設置しているナースコールで呼ぶよう依頼し、恥辱心に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 思いや希望を表しやすい様傾聴の姿勢でゆっくりと笑顔で対応している。意思表示がうまくできない方には利用者様の表情や反応をしっかり観察し、少しでも自己決定して頂ける様、働きかけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりのペースを大切にし、出来る限り希望に沿える様努めているが、難しい時があり全ての希望には沿えていない現状がある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 選べる方にはご自分で衣類を選んで頂き、利用者様の希望に応じて散髪・毛染めも行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一部の利用者様にもやしの根切り等の下準備をお手伝いして頂き、月に2回自由メニューの時にお好みの物を伺い食事が楽しみになる様努めている。又、行事にて利用者様と一緒におやつ作りを行っている。 (外部評価) 法人の管理栄養士が献立を作り、各ユニットで調理をしている。月2回自由メニューの日を設定し、利用者の希望を聞いて食材を無駄にしないよう献立を考えて作っている。誕生会はケーキを作って祝うほか、ホットプレートを使っておやつ作りをしたり、戸外で芋煮会、青空カレーを楽しむこともある。職員は弁当を持参して利用者と一緒に食卓を囲んでいる。全盲の利用者には調理内容がわかるよう声掛けをしながら食事介助を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士が栄養バランスを考えたメニューを立て、食事量、水分量はすべて記録し確認しており利用者様一人ひとりに応じて白飯をパンに変更したり、キザミ食にしたりと摂取方法の変更、声掛けの仕方等工夫を行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後可能な限りご自分でして頂き、利用者様が出来ない所を介助する等、一人ひとりに応じた対応を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 利用者様一人ひとりの排泄パターンを把握し、個々の状態に合わせプライバシーに配慮しながら出来る限りトイレにて排泄が出来る様努めている。	
			(外部評価) 排泄パターンを把握してトイレ誘導し、日中はできるだけトイレで排泄ができるよう支援している。経済的負担を考慮して、職員で話し合いながらなるべく布パンツで過ごせるよう支援している。夜間頻回に排泄する利用者もナースコールを鳴らしてもらってトイレ介助をしている。便秘予防としてホットマッサージやセンナ茶を試すなどして、なるべく自然に排便できるよう工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分摂取、野菜摂取に気を付け、便秘の予防に取り組んでいる。便秘になった際にはホットタオルにて腹部マッサージを行ったり、医師に指示を仰ぐ等対応して折り、スムーズな排便が出来る様努めている。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者様全員が同様に入浴出来る様、曜日・時間の基本は決めさせて頂いているが、個々の体調や気分、外出時には変更を行っている。入浴時には日頃出来ない関わりを持てる様努めている。	
			(外部評価) 週3回の入浴を基本とし、利用者の身体状況に合わせて一般家庭浴と機械浴を活用しながら安全に入浴ができるよう支援している。利用者の希望に応えられるよう入浴カードを作って、曜日別に順番を変えて入浴している。入浴が苦手な利用者は、声かけを工夫することで入浴できている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者様が心地よく休息したり安眠出来る様、室内の温度調節を行ったり、個々の生活習慣や体調に応じて対応している。	
			(外部評価)	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋ファイルを作り、利用者様がどのような薬を服用しているのか把握に努めているが、副作用について全ては把握出来ていない。服薬介助時には職員2名で確認し誤薬防止に取り組んでいる。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの嗜好を知り、張り合いのある生活を送って頂ける様支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外出行事には希望の場所に出かけられる様支援したり、ご家族・知人様に協力して頂きながら出掛けられる様取り組んではいる。しかし、一人ひとりのその日の希望に応じた外出支援は出来ておらず、人員の観点からも難しい事だと思う。 (外部評価) 天気の良い日は、事業所の敷地内を散歩したり外気浴を楽しんでいる。敷地内に自販機を設置したので、飲み物を買に出る利用者もいる。向い隣の畑に植えられる花を見るのを楽しみにしている利用者もいる。花見や紅葉狩りなどに、法人の福祉車輛を借りて遠出することもあり、利用者の楽しみになっている。	利用者が重度化していく中で、外出の機会が少なくなっている。事業所敷地内の外出にとどまらず、買い物等、利用者が希望する外出ができるよう支援することを期待したい。小人数で、近くに出かけることから始めたり、協力者を発見する取組みに期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者様の希望に応じてお金を所持し、外出時等にご自分で使って頂ける様支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者様の希望に応じて電話や手紙のやり取りが出来る様努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 聖潔を保ち、天候に応じてエアコンの温度調節・換気・カーテンの開閉等行い居心地の良い空間作りに努めている。又、季節に合わせて壁面の飾りを変えたり、花を生け季節感を取りいれている。 (外部評価) 共用スペースにはオープンキッチン、椅子席とソファ席があり、利用者は思い思いの場所でくつろぐことができる。壁には職員と共同で作成した貼り絵や折り紙作品等の飾りつけがされ、桃の節句ムードに包まれている。2階ベランダからは遠く石鎚山を望み、田園風景を楽しむことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 自由に使って頂ける様、リビングの中やリビング以外にもソファを設置し、利用者様が思い思いに自由に過ごして頂ける様工夫している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ご本人・ご家族と相談しながら、馴染みの家具やテーブル・ソファを置いたり、壁やタンスの上に写真を飾る等、居心地良く過ごして頂ける様努めている。 (外部評価) 居室には電動ベッドと整理だんす、エアコン、洗面台が備え付けられており、家族写真やテレビ、応接セット、人形の置物等を持ち込み、居心地良く過ごせるよう工夫をしている。ハンガースタンドに洋服を掛け、毎日洋服を選んでおしゃれを楽しんでいる利用者もいる。感染症予防のため、各居室に加湿器を設置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレにトイレマーク、各居室にネームプレート、共有空間に手すりをつける等安全かつ、出来るだけ自立した生活が営める様、工夫している。	

評估結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105693
法人名	医療法人 河原医院
事業所名	グループホームひめ椿
所在地	松山市今在家4丁目7-28
自己評価作成日	平成 28年 1月 30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28年 2月 29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療面において、施設長の先生と看護師からの迅速な指示と処置がある。建物の窓からは田畑、山、そして神社と季節感を感じられる景色が一年を通して見る事が出来る。国道から離れており、車の音もなく静かな環境である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して10年目を迎える事業所は、松山市郊外の農家と新興住宅が混在する地域に立地し、近くに法人が経営する介護老人保健施設がある。運営推進会議には町内会役員や民生委員が熱心に参加しており、防災対策や避難訓練についての協議を重ね、火災時に町内会に依頼したい事柄を具体的に決めたり、大災害時一時避難所として法人施設を活用するための覚書を交わしたい等の要望が出されている。管理者は利用者が自己決定できるように支援したいと考えており、話しをよく聴くこと、利用者の残存能力を大切にして介護を行うことを大切にしている。食事風景も和やかで、職員が目目の不自由な方へ細やかな配慮をしている様子が伺えた。転倒の危険性が高い利用者に4点柵を使用していることについて、市担当者から指摘を受けたことを契機に、職員間や運営推進会議で話し合い、拘束をしない介護に取り組んでいる。話し合いを基調に、よりよいケアの実践に取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームひめ椿

(ユニット名) さくら

記入者(管理者)

氏 名 松田 岳人

評価完了日 平成 28年 1月 30日

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念は事務所に掲示しており、職員全員が共有しそれに即したケアが行える様努めている。 (外部評価) 事業所では、開設当初に職員で話し合って決めた理念を大切に継承している。管理者は家庭的雰囲気を大切にし、利用者が自己決定しながら残っている能力を発揮して笑顔で暮らしてもらいたいと考えている。職員は理念をスタッフルームに掲示して共有し、ケアに行き詰った時は理念に立ち返り見直している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の行事（夏祭り、秋のバザー、地域の防災訓練等）に利用者様も参加させて頂き、地域とのつながりが保てる様努めている。 (外部評価) 町内会に加入しており、地域で行われる行事に積極的に参加している。地区の公園で行われる夏祭りに出店参加したり、秋のバザーにも参加して花や野菜を購入して楽しんでいる。利用者は公園で知人と出会って話したり、地区の人に声をかけてもらい、喜ばれている。来年度は園児や学生との交流の機会を検討中である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議にて当ホームの取り組みを紹介し、認知症の理解等に繋げて頂ける様努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議において毎回入居者にお状況等を報告し、ご意見頂いた際にはそれを職員に伝達し休有することでサービスの向上に活かせるよう努めている。	
			(外部評価) 運営推進会議は、利用者と家族、町内会役員、民生委員、地域包括支援センター職員の参加を得て2か月に1回開催している。会議では、利用者状況や活動報告を行うほか、当面の課題について協議している。今年度は避難訓練について、町内会との役割分担や協力事項について具体的な話し合いを持つことができた。また、身体拘束についての意見交換も行われた。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議等にて市の担当者に現状を報告している。ただ、常時密には行っていない。	
			(外部評価) 運営推進会議に市職員が参加して、事業所の状況を理解してもらっており、介護保険制度について情報を得るなど、相談できる関係を築いている。地域密着型事業所連絡協議会に市職員が参加して助言を得る機会があり、連携を深めている。また、生活福祉課とも連携して利用者の支援にあたっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 法人内の勉強会にて、拘束を行わないケアの実践に取り組んでいる。しかし、理解を安全上・防犯上の観点から玄関の施錠を行っている。	
			(外部評価) 4点柵の使用について改めて学習し、身体拘束しないケアについて職員全員が共通に理解することができた。転倒骨折の危険を避けるための方法について、家族と話し合い承諾を得ながら対応している。また、福祉機器の導入についても検討中である。	事業所では拘束をしないで、工夫してケアを行ってきた経緯があり評価できるが、言葉の拘束についての認識は共有されていない状況がある。改めて、何気なくつかっている言葉や言い方が、利用者の行動を抑制することがあり、それも拘束になることを学ぶ機会を持ち、職員に周知されることを期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 法人内の勉強会にて学び、何が虐待に当たるかを理解し虐待行為をしない様、努めている。職員が感情的になりそうな時には対応を変ったり、声を掛け合って防止に努めるようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 今年度権利擁護の勉強会は行えていない。現在該当者は居ないが、今後必要に応じて学んでいく様努めたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時に重要事項説明書にてご家族に説明を行い、疑問点をお伺いしている。ご納得の上に契約書を交わしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご家族のご意見・ご要望に関しては職員も直接こちらからお聞きしたり、ご家族からも言って頂ける様な関係作りを行っている。また玄関には意見箱、壁には第三者機関に相談する連絡先も掲示している。 (外部評価) 運営推進会議に家族代表が参加して意見を述べてもらっている。家族面会時は日勤者が声をかけ、状況の報告を行なうと共に意向や要望を聞き取るように努めている。また、毎月発行する「ひめ椿だより」に担当職員が手書きの言葉を添えて送り、家族との信頼関係を構築するよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ユニット会や日々の業務にて業務の改善案等を随時聞ける様、声掛け行い、施設長や事務長に要望を上げている。 (外部評価) 毎月行われるユニット会のほか、適宜ミニユニット会を持って意見交換を行っている。職員は意見を言いやすい環境であると感じており、介護計画にも反映させている。また、年2回実施する人事考課では個別に面談し、話し合う機会を持っている。人材育成のための研修については毎月法人内で行う勉強会のほか、法人の指示で外部研修を受けることもできる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 年2回の考査や、日々の勤務状況をチェックし主任会や、考査会などにて意見を施設長・事務長に上げている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 月1回の勉強会や、外部研修に参加して頂ける様に努めてはいるが、人員の関係等にて中々勤務での参加の都合がつけられず、課題の一つになっている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 石井・久谷地区の事業所連絡会にて、職員同士の交流を図り新たな気づきを得てサービスの質向上に活かしている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所時、ご本人とのコミュニケーションを図り、信頼関係が築いていける様努め、フェースシートも活用し、本人の関係作りに活かしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前や入居時には十分に説明を行い、その都度に疑問や不安点・ご要望を伺い、関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居時、ご本人とご家族がその時に必要な支援を見極められる様、ご要望を伺い柔軟な対応が出来る様に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) ご本人と対話やコミュニケーションを深めていく中で、一方的な介護にならない様、傾聴の気持ちを持ちご本人と共に生活を営んでいくという気持ちの元、関係構築を行っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 月1回のひめ椿便りにおいての近況報告のみならず、ご面会時にも日頃の様子をお伝えし、ご要望を伺うなどしている、また、ご面会時には家族だけでお話出来る環境を整えている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 自宅に居た時の友人からの電話を取り次いだり、また方も運をして頂いたり馴染みの関係の継続をお手伝いしている。また、日頃の声掛けにも馴染みの場所や人の名前を会話に混ぜるなどして、お忘れにならない様に支援している。	
			(外部評価) 入居時に家族から生活歴を聞き取り、馴染みの人や場所についての情報を得たり、関係機関から情報を収集して把握している。県外に住む家族が帰省する際に行きつけの美容室に行ったり、家族が付き添って外出に出かけることもある。事業所では新しい馴染みの場所や人をつくるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日々、利用者様の関係を把握し、仲良くして頂ける様、また孤立してしまわない様に時には職員が間に入り支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 現状、退所された段階で関係が途切れてしまうことが多い状態ではあるが、ご家族からの相談や連絡があった時には状況にあった支援や法人内での連携に努め、フォローできる体制にある。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 出来る限りご本人の希望・ご要望を伺い、本人本位のケアが出来る様努めている。	
			(外部評価) 職員は日常生活の中で利用者の話をしっかり聴くよう努めている。会話の中から新しい情報があれば記録してユニット会等で共有している。気持ちを表現することが困難な利用者に対しては表情から推察したり、家族や入居前に利用していたサービス担当者から聞く等して、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとり、フェースシートやご本人・ご家族からのお話を伺い、把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一日一日様子を記録し、どのように過ごされるのか、何が出来る出来ないかの現状を把握し、職員間で情報を共有している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ご本人が生活していく中で会話や行動により思っている事を把握し、月に1回のユニット会にてご本人の現状に即した啓作を作成する為、職員同士で話し合っている。ご家族には面会時に都度都度ご要望をお伺いし、ご意見をお聞きしている。 (外部評価) 初回介護計画は介護計画担当者が立案し、ユニット会でカンファレンスを開いて介護計画に反映させている。状態の変化がある時はその都度、ない場合は6か月に1回サービス担当者会議を開催し、話し合っ介護計画の見直しをしている。介護計画を日々意識しながらケアを行い、実施状況を介護記録に記載してモニタリングに反映させている。家族面会時に介護計画の説明をして、了承を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の記録はなるべく詳しく記入する様にしており、毎月のユニット会や何かあった時には随時新たに生まれた課題について話し合いをし、実践や見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) ご本人の状況やご家族のご要望、そしてニーズに対応し、その時に合った支援やサービスが行える様取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 消防訓練の際には消防士に来て頂いたりしてるが、地域資源の把握というまでには至っていない現状がある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) ご家族・ご本人の希望にて主治医を選択して頂き、納 得のいく医療が受けられるよう支援している。	
			(外部評価) 利用者や家族が希望するかかりつけ医を受診するこ とができるが、月2回訪問診療を受けることができ るため、協力医をかかりつけ医とする利用者が多 い。法人の介護老人保健施設に所属する看護師が 24時間連絡体制をとっており、緊急時医療連携を 取ることができる。また、歯科や皮膚科医師の訪 問診療を利用することもできる。総合病院外来は 家族が付き添って受診し、文書で情報を伝え共 有するように工夫している。認知症等で受診す る際には、的確な状態を説明する必要があるた め、管理者が同行する場合もあり臨機応変に適 切な受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情 報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 体調不良時、連携協定を結んでいる看護師に 相談・報告を行い、先生の指示にてじゅしん や、看護を受けて頂ける体制を整えている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相 談に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 利用者が入院された際には病院の地域連携 室と連携を取り、治療状況や退院に向け ての連絡を取り合っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説 明しながら方針を共有し、地域の関係者と 共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入所時や重度化していくにあたり、ご家族 に説明して出来る事・出来ない事を理解し て頂いている。	
			(外部評価) 医療連携体制に係る指針を作成し、利用者 や家族の要望にそって適切な医療が受けら れるよう支援している。重度化した場合は、 その都度家族の意向を確認し、協力医と 相談しながら医療体制が整っている法人 事業所に転入所することが多い。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時のマニュアルがあり、ユニット会でも再確認しているが、定期的な訓練は行えていない。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 運営推進会議にて地域との連携協力体制を話し合っている。また、年に2回避難訓練を実施し、適切な避難誘導が行える様努めている。 (外部評価) 年2回日中及び夜間想定での避難訓練を実施、内1回は消防署立ち会いのもと行っている。地区防災訓練に参加し、運営推進会議で災害時協力体制について具体的な協議を重ねてきている。大災害時は法人介護老人保健施設を一時避難所と取り決めており、備蓄品の準備をしている。次年度は町内会と合同で避難訓練を行う計画である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりの人感を把握・尊重し、出来る限り誇りであったりプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。 (外部評価) 職員は利用者を人生の先輩として敬い、家族のような関係づくりに努めている。丁寧な声かけを行い、親しみを持って会話ができるよう信頼関係を築きたいと考えている。一人で入浴したいという利用者は頻回に声かけを行って見守っている。また、排泄介助を行う際はトイレに設置しているナースコールで呼ぶよう依頼し、恥辱心に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ご本人の自己決定を促す言葉かけをするよう努めている。意思表示がうまくできない方についても表情や仕草を読み取り、ご本人の希望に即したケアが行える様努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりのペースに合わせ、希望に沿う様に努めているがすべての希望には人員等あり沿えていない。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 選ばれる方には選んで頂き、その人らしい身だしなみやおしゃれ、化粧水など使用出来る様、支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) もやしの根切り等、下拵えはして頂いているが、利用者様と一緒に食事作り・片付けは出来ていない。おやつ作りなどでは企画として調理に入って頂くことはしている。 (外部評価) 法人の管理栄養士が献立を作り、各ユニットで調理をしている。月2回自由メニューの日を設定し、利用者の希望を聞いて食材を無駄にしないよう献立を考えて作っている。誕生会はケーキを作って祝うほか、ホットプレートを使っておやつ作りをしたり、戸外で芋煮会、青空カレーを楽しむこともある。職員は弁当を持参して利用者と一緒に食卓を囲んでいる。全盲の利用者には調理内容がわかるよう声掛けをしながら食事介助を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 管理栄養士の立てた献立にて、栄養バランスの良い食事を提供できている。食事摂取量・水分量も毎食把握し、確保できているかをチェックしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後ご本人に合った口腔ケアを支援しており、ご本人にとって難しい行為などは介助に支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個々人の排泄のパターンを把握し、トイレにての排泄が出来る様支援している。 (外部評価) 排泄パターンを把握してトイレ誘導し、日中はできるだけトイレで排泄ができるよう支援している。経済的負担を考慮して、職員で話し合いながらなるべく布パンツで過ごせるよう支援している。夜間頻回に排泄する利用者也ナースコールを鳴らしてもらってトイレ介助をしている。便秘予防としてホットマッサージやセンナ茶を試すなどして、なるべく自然に排便できるよう工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘にならない様に日々チェックをしており、細かく状態に合わせて対応をしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 週に3回入浴して頂いている。曜日と時間帯についてはこちらが決めさせて頂いている。 (外部評価) 週3回入浴を基本とし、利用者の身体状況に合わせて一般家庭浴と機械浴を活用しながら安全に入浴ができるよう支援している。利用者の希望に応えられるよう入浴カードを作って、曜日別に順番を変えて入浴している。入浴が苦手な利用者は、声かけを工夫することで入浴できている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの生活習慣や状態に応じて、それぞれ好きな時に休息をして頂いている。建物内の室温なども心地よく休んで頂ける様調節をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個人カルテに処方箋を閉じており、職員全員把握に努めているが、副作用についてまでは全ての把握は出来ていない。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者様一人ひとりの出来る事を見極め、お手伝いやレク等、気分転換が図れるような支援を心掛けている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 行事での外出や庭の散歩はしているものの、日常的な戸外への外出は支援できていない。個別ではご家族に対応して頂いている現状である。 (外部評価) 天気の良い日は、事業所の敷地内を散歩したり外気浴を楽しんでいる。敷地内に自販機を設置したので、飲み物を買に出る利用者もいる。向い隣の畑に植えられる花を見るのを楽しみにしている利用者もいる。花見や紅葉狩りなどに、法人の福祉車輛を借りて遠出することもあり、利用者の楽しみになっている。	利用者が重度化していく中で、外出の機会が少なくなっている。事業所敷地内の外出にとどまらず、買い物等、利用者が希望する外出ができるよう支援することを期待したい。小人数で、近くに出かけることから始めたり、協力者を発見する取組みに期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 全ての利用者様ではないが、理解されている方はご自身で所持されている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご本人の希望でご家族にお電話されたり、こちらからお電話したりと支援をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共有空間には手すりがあり、廊下も車椅子同士が離合出来る広さがある。温度も過ごしやすい様に調節しており、カーテンなどにより眩しすぎず、暗すぎずを支援している。季節ごとに壁面飾りも変えている。 (外部評価) 共用スペースにはオープンキッチン、椅子席とソファ席があり、利用者は思い思いの場所でくつろぐことができる。壁には職員と共同で作成した貼り絵や折り紙作品等の飾りつけがされ、桃の節句ムードに包まれている。2階ベランダからは遠く石鎚山を望み、田園風景を楽しむことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 自由に使って頂ける様ソファを設置し、各自が自分のお席を持ち、テレビを観たりお話をし合ったりと思ひ思いに過ごされている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家より馴染みの物を持ってきて頂く等のご家族の協力もあり、居心地良く過ごして頂ける環境を整えている。 (外部評価) 居室には電動ベッドと整理だんす、エアコン、洗面台が備え付けられており、家族写真やテレビ、応接セット、人形の置物等を持ち込み、居心地良く過ごせるよう工夫をしている。ハンガースタンドに洋服を掛け、毎日洋服を選んでおしゃれを楽しんでいる利用者もいる。感染症予防のため、各居室に加湿器を設置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 手すりやトイレでのアームバー、バリアフリーでもあり、利用者様一人ひとりが安全に自立した生活を送って頂ける様工夫している。	